

視察研究会に参加して 支倉 康稀

9月2日(月) 参加者18人

今回は「西根堰」の視察研修会に参加しました。土地改良区の石川事務局長と渋谷幹事の案内で詳しい説明があり、その上詳細な資料を頂きましたので、歴史的背景や堰のすがた等について理解することが出来ました。

西根堰は米沢藩により約390年前に造成された堰で、摺上川から取水し伊達地域の農業用水として重要な存在となっています。

造られたのが江戸時代初期であり、当然人力のみで、しかも短時間でこの事業を完成させたことには驚くことばかりです。岩盤のところもあり難工事だったと思います。又、河川や道路と交差する所ではサイホン方式や掛樋等、江戸初期に既に高度な技術があったことがうかがわれます。更に特記すべきは、勾配が殆んどない堰であること(上堰は26kmで45mの高低差しかない)等高線に沿って堰が作られたとのこと、測量技術の高さにも感心させられました。堰の完成により伊達地方の農業は水不足がなくなり安定した農業経営が出来る様になって現在に至っているものと思います。その後、補修改良工事が行われ現在はコンクリート堰ですが、藤倉ダムの造成、摺上ダムの完成により、より用水の安定化がなされました。

西根堰造成で功績のあった米沢藩の古河善兵衛、佐藤新右衛門をまつり明治20年に西根神社がつくられたことを知りました。

昨年、視察した石提等(直江石提)も米沢藩であり、米沢藩は利水治水に熱心であったと強く感じました。

視察の途中で渋谷幹事のご好意で伊達家始祖伊達朝宗墓所、無能寺の笠松、奥州・羽州街道の追分け、産ヶ沢川のホタルの生息地等案内頂き有難うございました。

